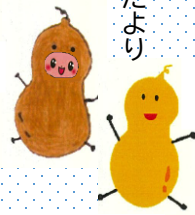


かわら版

集落支援員だより



「めざせ！生涯現役」シリーズ②

自分の名前に恥じないよ
う天と地、人への感謝と
喜びを胸に、自然とふれ
合って暮らしています。

岩代地域で仕事や趣味、ボラ
ンティア等に携わり、元気に暮
らしている高齢の方を紹介する
シリーズ。第二回は、東新殿
でガーデニングを楽しんでいる
佐藤喜三さんを紹介します。



▲佐藤喜三さん。黒竹に囲まれた休憩所で

佐藤喜三さん
プロフィール
~~~~~  
昭和13年1月5日  
生まれ。86歳。  
血液型O型。  
農家の長男とし  
て農業に従事し  
ながら地元の会  
社に勤務。定年  
退職後は道の駅  
の立ち上げに関  
わり『さくらの  
郷』の初代組合  
長を務めました。

## ◆ガーデニングを始めたのは？

農家の長男として自然や土に親  
しむ暮らしをする中で、父母に習  
いながら庭の手入れをするのは当  
たり前でしたので、  
いつ頃と  
聞かれて  
も困るん  
です(笑)。  
よくみ  
なさんに  
「ウグイ  
スの鳴き  
声が響い  
て、まる  
で別世界  
です」とか  
眺めです  
ね」と言  
われまし  
た。山に  
囲まれた  
庭の形状  
が独特だ  
からでし  
ょうか。



▲解放感のある庭は魅力があり、散歩する人や写真撮影をする人も多い

昭和五十年代の国道整備の際に、  
自宅の周りの山の土を大量に提供  
することになったために現在のよ  
うな広々とした空間ができ上がり  
ました。その時に大きな石が土の  
中からごろごろ出てきたのですが、  
形の良いものを少しだけ残しても  
らいました。

## ◆庭の特徴やこだわりについて

桜の木が二十本以上あるのです  
が、中でも風情のある古い幹の桜  
を「縄文桜」と名付けました。道  
の駅「さくらの郷」の裏手にある

## Q&A形式で 佐藤喜三さんの人となりを紹介

佐藤さんのインタビューでは、独自の人生哲学を持って暮らしていることが印象的でした。その内容を紹介します。

### Q.岩代の好きな風景は？

→羽山神社は小さい頃からよく遊んだ場所です。高校卒業後、神社の祭りに関わるようになって益々好きな場所になりました。高いところにある神社なので見晴らしがよく、安達太良山も眺められます。お気に入りの風景、ナンバーワンですね。

### Q.人生で一番思い出に残ることは？

→亡き妻との外国旅行です。私が70歳の頃に、夫婦でスイス、カナダ、ドイツ&オーストリアを3回に分けて訪問。街中の景色よりも山や湖など自然のある場所が好きなので、例えばナイアガラの滝の代わりに山や湖を選ぶなどコース選びにこだわりました。一眼レフカメラを持参し、たくさん撮影しました。よく撮れた作品を居間に飾っていて、当時は懐かしく思い出します。

### Q.座右の銘は？

→「温故知新」「真実一路」  
古いものを大事にしながら新しいものを取り入れていく姿勢と、自分が正しいと信じる道をまっすぐ進んでいくことが大切だと感じています。

### Q.健康づくりは？

→酒もタバコもきっぱり止めました(笑)。あとは歩くことを心がけています。室内用自転車も時々こいでいます。



▲喜三さんの好きな風景。東新殿にある羽山神社の参道からの眺め

## ◆日々思うことについて

人生を振り返ると、色々なことがありましたが、つねに自分の名前のように生きていきたいと考えてきました。自分なりに「喜三」という名前という意味を、「三つの喜びを生きる」と解釈しています。三つの喜びとは「天地人」つまり太陽と大地と周りの人々に、「いつもありがとう」と思う気持ちです。これからも周りのすべてに対する感謝を忘れず、毎日を過さず、毎日いきいきしたいです。



▲「縄文桜」を背景に水仙の咲く庭で撮影



# ～岩代支所に新しい風～新職員を紹介します

新岩代支所長から  
岩代の皆さんへのメッセージ

岩代支所長 騎西東五さん



昨年度の岩代支所地域振興課長から、今年度岩代支所長を仰せつかりました。岩代地域での勤務2年目になりますが、引き続き岩代地域のために微力ではありますが尽力して参りますので、よろしく願いいたします。

岩代の皆さん、この顔を見かけたら、ぜひ声をかけてください。

※騎西さんに関するより詳しい情報は、WEB版『かわら版』の令和5年度61号をご覧ください。▶右のQRコードからサイトにアクセスできます。



「このご縁を大切に、仕事をさせていただきます」  
岩代支所地域振興課長 移川直弥さん



小浜の新町出身で新町から通っています。岩代支所へは十八年ぶりに帰ってきました。  
四月一日の着任から、支所にいらつしやる多くのお客様とご挨拶させていただいた中で大変懐かしい方々との再会もあり、とてもうれしく思いました。

## ★移川さんの魅力に迫る★

★趣味・休日の過ごし方は？

小さい時から現在も『小浜の紋付祭り』に関わっています。今年も盛大に開催できるよう準備を進めたいです。

★子どもの頃なりたかったのは？

「お祭りの人」（新町の若連に強い憧れがありました。）

★これからやりたい事は？

今年は、息子にお祭りの笛を教えます。

縁あってまた、岩代地域の仕事をさせていただくことを大変嬉しく思うと同時に、身も引き締まりますが、このご縁を大切に仕事をしたいと思っています。  
ここ十数年来、日本各地で地震、豪雨、豪雪などで災害が頻発しております。そのような中、岩代地域は災害が多い地域であり、私自身も平成二五年の小浜川の氾濫により自宅が浸水した経験があります。岩代支所は岩代地域の防災の拠点ですので、一朝有事にあつては地域の皆さんの信頼に応えられよう努めて参りたいと思います。

令和六年度 岩代地域  
行政委員・自治会長会議  
が開催されました



▲新年度の行政委員と自治会長が集いました

岩代の歴史シリーズ  
両属の将 石川弾正の生涯 ⑫

石川弾正顕彰会事務局長  
日下部善己

十二戦国の城下から宿場町へ(前編)

豊臣秀吉の奥羽仕置後、当地は政宗に替わり会津城主蒲生氏上杉氏、蒲生氏(再蒲生)が支配した。塩松石川氏が築いた百目木城は、会津領支城の塩松東城、四本松東城として塩松東地域の政治軍事の中心地となった。その後、城下は江戸期の百目木宿へと発展的に引き継がれ、人や物の交流拠点となった。

百目木宿は、三春一中村(相馬)街道沿いに営まれ、米や生糸等の産物、経済資本等、百貨が集う町であった。小浜・針道とともに安達東(旧塩松)の経済・流通の中心都市として繁栄した。「百目木札」(銀札)の発行流通も知られており、貨幣経済が山間の村々にも大きく浸透し、養蚕業や農林業の産物を中心として商業活動が大変活発であったことが窺える。

市の立つ日・人や物の流通、貨幣経済の進展が、在郷町とそれを取り巻く地域の商業活動・現金経済を活性化させた。市はそれを発展させるツールであると共に庶民の生活を支える物資の流通・販売にとっても重要な場所として機能した。